



いずみ

No.69

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 39



《無題》

梅田 力

(2ページに「作者の言葉」)



山内壮夫作《よいこつよいこ》像に見る

彫刻の安全管理

友の会副会長 高橋 大作

2019年6月29日、公開セミナー「いま、野外彫刻の保全を考える」が札幌文化芸術交流センターSCARTSコートで開催されました。このセミナー開催の直接のきっかけは、昨年11月28日に札幌彫刻美術館で彫刻「鳥の碑」（重量約600kg、高さ187cm）が突然倒れ、点検していた寺嶋弘道館長が負傷した事故。さらに、今年、セミナー開催直後の7月1日には大阪の御堂筋で銅像が台座から落下し、同3日には岩見沢市で駅前の野外彫刻に乗用車が激突して損壊のニュースが相次ぎました。今後このような案件が急速に増加するものと思われます。

そういう時代状況の中、このたびのセミナーで、故山内壮夫先生制作のコンクリート彫刻、《よいこつよいこ》の修復経過を発表する機会を与えられました。

ところで私ども友の会は、2008年（平成20年）、山内先生の生誕100周年を記念して、山内作品の清掃と設置状況の調査を行いました。そののち札幌市へ市内の野外彫刻全般（約700体。うち415体を市が管理）に関する保全、修復についての陳情を毎年のように行いました。そしてこの作品については特に劣化が甚だしい状況から、早期の修復を強く要望しました。《よいこ》像は1952年に制作され、直ちに円山動物園前に設置されましたが、長年の風雪、風雨にたえきれず鳥の尾羽

は凍害による爆裂で欠け落ち、頭部も同様でした。

修復の技術的詳細については友の会会報「いずみ」62号（2018年1月）を参照していただきたいのですが、全国的にコンクリート彫刻が設置されたのは戦後の短期間に集中しており、設置環境その他を考えれば、30年ぐらいいでも倒壊の可能性があります。いわんや40年、50年と経過すると、その可能性はますます急激に高まり、その数も級数的に増加するものと思われます。

彫刻像は土木や建築の分野でいう「構造計算」はされておらず、配筋量や位置に関しても考慮されていません。また、コンクリート彫刻については、コンクリートを取り巻く環境が日本全国で最も厳しい北海道では凍害や冬期間、道路に散布する凍結防止剤によって劣化が促進され、ブロンズ彫刻でも像本体と台座との間を締結しているボルトの腐食が進むため、いつ像が台座から転落してもおかしくない可能性があります。そのためにも友の会は以前から野外彫刻の保全、修復のために有識者を集めた専門委員会を設置し、早期の全数点検を要望してきたところです。

彫刻像の美しさを鑑賞する以前に安全を確認しなければならない時代になってきたという感がする今日この頃です。